令和２年度 第３回聖籠町幼児教育推進体制の充実・活用強化事業
有 識 者 会 議　次第

日時　　令和３年３月２日（月）１３時～１５時００分

場所　　聖籠町役場　大会議室

次第

１　開会
２　教育長あいさつ
３　説明・協議
（１）第２回有識者会議でのご意見を受けて修正点の説明
〇「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のとらえについて
〇日案について
〇聖籠町の幼児教育充実構想
〇研修について
〇幼小接続について
〇聖籠町として大事にすること

（２）質疑・応答・ご指導

（３）令和３年度の計画について

４　閉会

令和２年度 第３回聖籠町幼児教育推進体制の充実・活用強化事業
有 識 者 会 議 事 録

令和３年３月２日（火）１３時～１５時００分

聖籠町役場　大会議室

【協議】

（座長）

わくわくシートについて、一つの遊びにこだわらず、指導案的ではなくて、とてもよくなったな、変わったなと思って見ていました。

（委員）

聖籠町は、大体３歳児３クラス、４歳児２クラス、５歳児２クラスありますので、わくわくシート自体は一人で書きますが、実際「今日こんなだったんだけど、私ここで悩んだんだよね、どう思う？」と振り返る時間を取れるといいなと思います。本当は取りたいんですけど、園ではお昼寝があって長い時間の保育をやっているので、その時間の確保がなかなかできないのが現実です。ただし、書いてるだけでは先生たちは自分の考えでしかないのでだめなんです。そこで、私達に自分から発信してと言うんですけど、なかなか時間がとれなくて、そこの工夫はしていかなければと思っています。

（座長）

隙間時間と対話というのが、評価の一つのキーワードになりますよね。遊びがさらによくなるための評価ですよね。活動マップがとても変わってすごく嬉しいです。

（委員）

私も同じことを考えていました。二つ話があります。これがいいなということなんですが、この間の活動構想マップはプランで終わっていたイメージがあったんです。ところが、わくわくシートは動きがあって、最初の遊びは少しずつ始まっても、日々の保育の中からどんどん変えていくという動きが感じられて、子どもの遊びをもとに次のプランを練り直そうというサイクルが見えるようでとてもいいと思いました。

一つ質問です。これは日付を見ると、一週間くらいをめどにするのかということと、学級ごとに作りますか、教えてください。

（委員）

一週間ではなくて三日位をめどに、クラス担任が自分で書きます。

（委員）

ありがとうございました。

（座長）
負担になってはダメですね。

（委員）
質問なんですが、短期指導計画は二週間単位ですよね。

（委員）
二週間ではなく、三週間です。

（委員）
その三週間という短期指導計画の中で、このわくわくシートは三日単位とか一週間単位とかそういうスパンの中で書かれるという形ですね

（委員）
短期は短期として書いて、そこからこのワクワクシートに下りてくるものがたくさんあるという考え方です。

（委員）
私も、子どもの姿や子どもの遊びが主体の幼児教育の中で、子どもの姿からこのわくわくシートは大変素晴らしいなあと思いました。その中で、これからは振り返りのところが重要になってくるのではないかと思います。ただこれは、個々でというよりも園の体制の中でどう確保していくかというマネジメントになってくると、キャリアステージをお示ししていただいた中で、そういったマネジメントをどうするかという研修にもかかってくるのではないかと思います。

（座長）
附属幼稚園の保育記録、のびのび保育シート、期ごとのカンファレンスというように、少しずつ違いながら評価をする。あるいはそこに集まる人も、その時は全員が来るなどうまく組み合わせて評価をしていく評価システムも、これから幼児教育アドバイザーが練り上げていかれるんだろうなあと思います。

（事務局）
やはり振り返りがとても大事で、その時間をどのように捻出するかを現在一生懸命考えているところです。

（座長）
一番言いたかったのは、先回の会議で「非認知能力と大きく書いてあるけれども、幼稚園時代は認知能力も大事なんだ」という意見があり、今回は『認知能力と非認知能力の伸長』と書いてあるじゃないですか。認知能力と非認知能力といったら能力全部ということになるから、わ

ざわざ書く必要があるのかなというふうに思いました。幼児教育に限定すれば、特に強調したいのはやはり非認知能力だという意味で、認知能力のもとにもなる非認知能力を強調した方がいいのかなと思います。今までは非認知能力だけをアップしていたのに、二つ書いたら意味があまりなくなるような気持ちです。

（事務局）
　この間の会議で認知能力と非認知能力の両方が一緒になって伸びていくというご意見を受けてこのように変えましたが、そこに関してはご意見をいただきたいと思ってます。
また、三つの育みたい資質能力が大事ということで、三つの育みたい資質能力を位置付けました。

（座長）
　三つの資質能力は入れてもらっているということですね。幼児教育の充実構想マップに認知能力と非認知能力が書かれていますが、幼児教育時代は特に非認知能力が伸びるということで、ここに敢えて認知能力も書いてほしいと言ったわけではないと思うのですが。ここは、非認知能力の伸長だけにしてもよいかということですね。

（委員）
　私も今のご意見に賛成で、より重視するのが非認知能力で、認知能力についてもちゃんとやってますよ答えればよいので。

（委員）
　私もその通りだと思います。

（委員）
　非認知能力の伸長のみでいいと考えます。

（委員）
　私も基本的には同じです。どっちを重視するかということを訴えるのがこういうシートだと思うので。三つの資質能力と当然つながっているんですよね、
　あと、４つの吹き出しの中で「見取り」というのが、ちょっと違うレベルかなと思ったのですが。環境構成や声掛けや傾聴と、「見取り」というのはちょっと別物かなと思ったんですが、皆さんが違和感がなければ杞憂です。環境構成をしたり、声掛けをしたり、子どもの思いを活動の姿から聞き取ったり見取ったりというのを擦り合わせればいいのですが、見取りとは環境構成も全部見取った上でするものだと思ったので。

（事務局）
　見取りの上で環境構成や声掛け・傾聴を行い、そこからまた見取ることで次の指導に生かしていくという意味で、すべてが繋がっていくと思っております。

（座長）
CAVScene は筑波の女性の先生が開発したと聞きましたが、これを振り返りの時にこそ、「この姿の中に１０の姿のこんな姿が見られるねえ」というふうに使えるといいと思います。幼小の連携でも、今は三園の園長先生とすごく仲良くなったという話があったんですが、今度は校長先生とも仲良くなって、幼小接続の情報交換会だけではなくて、１０の姿を手掛かりにした合同研修会がもてたりするといいなと思います。校長先生や小学校の先生は、園の子どもたちがただ遊んでいるだけに見えるので、「あっそうか、こんな学びがこの中にあるのか」と校長先生自ら思うようになれば、もう少し「幼稚園に行って見てこい」というふうになって本当につながっていくと思います。CAVScene をそういうふうにも使えないかなと思って見ました。

（委員）
CAVScene って知らないので教えてください。

（座長）
その都度その都度動画が撮れるし、写真も撮れて、そこに書き込めるんですね。今この子はこうやってこういうふうにしたよとか、例えばこの子はこう言ってるという吹き出しを書けます。

（事務局）
CAVScene はずっとバックグラウンドでビデオも撮れて、なおかつクリップ動画と言って場面を切り取って撮れます。この間も園長先生が「あの場面を出して」と言った時にそれをすぐに出して映せるので、とても便利だと思います。また、もう一人の先生の違う場面を出してと言われた時にもすぐに出せます。

（座長）
保育の観察記録のために、これを使って観察を進めていけますね。

（委員）
CAVScene を初めて見させていただいて、素晴らしいなあと思ったのと、聖籠町で大事にすることは先生方の指導力をつけることがまず大事だということで、幼児教育アドバイザーが CAVScene を活用していることが分かりました。それで、園内での振り返りとして使うこともちろんですが、町内の複数の園との、いわゆる幼小もそうなんですけど合同研修会で互いの保育を実際に見に行くという時間の確保がなかなかできなかったら、こういうものを活用して会議をするとか、いわゆる Zoom での研修会を行うことがこれからあるといいなあと思います。国も、今年度第３次補正予算で幼児教育における ICT の活用についての環境整備ということで、予算の方も各自治体とか設置者の方に下りていってると思います。今は、小中は GIGA スクール構想の中で急速にタブレットの配置や活用が進んでいる中で、幼児教育の中でどう活用していくかということがまだまだこれからの段階です。せっかくここまで素晴らしい構想が練られているので、ぜひ聖籠町からそういったものを活用してこんなことができるというものを発信

していただけたらいいなと思っています。

（座長）
今の話ですごくよかったなと思うのは、全国国公立幼稚園子ども園長会の先生がこの間言っていたんですが、幼稚園には WiFi がないのがほとんどだそうです。ICT はいらないみたいな、AI に一番関係なく AI が一番シェアされないのが保育だというように。それは私も思うのですが、使いたい時に使えない。特に先生方が楽をする意味でも負担を軽減する意味でも今は全部代替の Zoom 会議がありますから。こども園では Zoom 会議できますか？

（委員）
園には WiFi がありません。

（座長）
そうですよね。今、私は宮古島の人と保育の研修ができるのに、高田の保育園の先生方は大雪で来れないんです。そういう時に Zoom ができるといいですね。

（委員）
各自治体とか設置者の方に予算配当とかはあるんでしょうか。WiFi 環境整備とか。

（座長）
補助金をそれに使っているかどうかですよね。

（委員）
今せっかく ICT 支援の話が出たので、お話しさせていただきます。コロナウイルス関連の第三次補正のこれまでの衛生用品の購入と同じように、幼稚園の ICT 化を進めようということで一園当たり百万円の補助で４分の３が国負担、４分の１が事業者･設置者負担となっています。私の業務の範囲で言うと市町村が４分の１負担、県・国負担が４分の３と言うような補助金制度を受けています。私もすごくいいなと思ったのは、離れた園同士で共有することができれば、直接や対面式の方が間違いなく効果があると思うのですが、今のような状況の中で、あるいは保育者が十分外に出る時間がとれない時にやはりこういうものを活用できるといいと思っています。そのあたりを、私は少し教育委員会の中で話をさせていただいて、十分予算をとり、各市町村の方に４分の３を補助できるようにしてあります。ただやはり、なかなか上の方のご理解がないと事業が進められないという点では、まだまだ他の市町村の取り組み状況を見ますと弱いのかなと思っています。ですので、先程からお話があったようにやはりここで聖籠町の方からしっかりとこういうふうに成果を出していっていただけると、他の市町村もなるほどなぁというように導入しやすいのかなと思います。できればそういう成果を、私もどんどんいろんな場所で紹介していきたいと思っています。

（座長）
まず聖籠町からということですね。

（事務局）
今の ICT の補助金の関連で、当町におきましては国の第三次補正予算の ICT 支援に手挙げをしてはおりません。というのも当町は、令和３年度末をもって統廃合して園が一園体制に令和４年度から減りますので、今の三園体制での施設整備をしてしまうと、のちのち補助金返還が発生するという財政上の面があるためです。WiFi 環境の方についてはまだ子ども園のほうに施設整備はできておりませんが、ICT の補助金を活用してまでの大規模整備は今のところ考えてはいないのですが、将来的に一園に集約されて今度民間の認定こども園に広がっていったときに、今度逆に民間の私立認定こども園の方で ICT 事業の手挙げがあった場合、町の方としても補助にお付き合いするという考えはあります。なので、幼児教育における ICT については重要視されてはいると思うんですが、現段階で今ここで手挙げをするという考えはないという状況です。

（委員）
ぜひこの活用方法をいろんなところで発信できるといいなというのが私の思いです。今お話いただいたように、やはり市町村によって事情がそれぞれあるので、いかなるタイミングでもこういう活用があるんだというモデルになると思います。まずモデルがなければ、必要性ということをなかなかいろんなところでお話しすることもできないので、非常にこの取り組みに期待したいと思っています。

（座長）
今の話は ICT を先生の研修でということですが、では幼児がどういうふうに ICT を使うかということについて、全然必要ないんじゃないかと思うか、いや実はものすごく遊び込んでいる中であるといいなと思う時があるのかというあたりも研究になると思うんです。５歳児くらいになると小さな葉っぱのふちから露が垂れているとか、虫の足までよく見たいとか、自分で写真を撮ってきて拡大して見るということをやってる。全部やる必要は全然ないけれども、やりたいときにできる環境というのはやはり必要だという考えがありますよね。さっきのお話の園長さんは、目黒のサンマというので子どもが「七輪でサンマを焼くのを調べたい。七輪て何だ？」となった時に、ああこれがインターネットにつながっていて園で調べられたらすぐできるのにと思ったとおっしゃっていました。だから、これからは園は全く関係ないということはないと思います。ましてや、これから GIGA スクールで一人一台端末を持っている小学校に入学するわけですから。

（委員）
国公立幼稚園の全国組織の中でも、それから新潟県の国公立幼稚園の来年度の方針の中でも、国の大きな流れをうけて ICT の活用、それの成果と課題の発信というのが取り上げられています。幼児教育の本当にベースのあるものの中ではちょっと違うかもしれないですが、今先生が

おっしゃったように本当に欲しいなあとか必要だなというときに使える子どもというのを、やはりこれから育てていく必要があると思います。ましてや、小学校に入学したら一人一台タブレットが渡される時代になっているのに、家庭や社会の中では触れているかもしれないですが、幼児教育の場で全くそれがない中で小学校に繋がるというのではなくて、何らかの必要性がある時にこれが使えるということを保育する側も知っている必要があると思います。そういった意味で予算配当がどうのというのではなくて、まず例えば CAVScene を使うとかタブレットを使ってみたとか、こういう保育の場面があるとかこういう研修の場面があるというのを、ぜひ発信していけたらと思います。

（委員）
二つ質問があります。一つ目は、その CAVScene というのは ZOOM かなにかで遠隔会議をする時に画面共有をかけて遠隔でも見れるようなものですか。二つ目は、今話題に出ている子どもの ICT・IPad 活用です。園児の必要に応じてというお話ですが、今おっしゃった事例の他に何かそういう活用例をご存じの方がいらっしゃったらぜひ教えてください。

（座長）
CAVScene は ZOOM で画面共有ができるかというお話ですね。できるんじゃないですか？

（事務局）
詳しい方がいらっしゃったら教えてほしいです。

（座長）
事務局は分かりますか？　こうやって出せるってことはできるってことですよね？

（事務局）
ZOOM での場面共有がどの範囲でできるか分からないです。

（委員）
PowerPoint とかではできるし、動画もできるんですが。

（座長）
違うところにいる人がそれを一緒に見れればいいですね。子どもの ICT 活用の事例もこれからどんどん出るかもしれませんね。

（委員）
実際は IPad で子どもたちが歌っている姿を撮って、こんなふうに歌ってるね、じゃあもう少し保育の中で歌わせていこうかというように、職員の活用がほとんどです。あと発表会や、事前練習の時に映して自分の動きがどうかを見ることはしていますが、実際子どもが活用というのはありません。

先日子どもたちがおひな様作りをして、担任が「おひな様ってどんな意味があるのかな」と投げかけをして、それをお家の人に聞いてこようということになりました。その次の日に、園のおひな様の前で、男兄弟しかいない子たちが三人で見ながら悩んでいるような顔をしていたので、「どうしたの」と声をかけたら「おひな様ってどういう意味があるのかお家の人に聞いても分からなかったし、どうすればいいのか分からない」と話していました。その時に、「じゃあ、絵本の部屋に行っておひな様の書いてある本があるかもしれないから見てみたらどう？」と言ったら、「ああそうだね」と言って子どもはパッと絵本のある部屋に行ったんです。でも、その時に今の子どもたちだったら、「調べてみる？園長先生いいもの持ってるよ」と言って IPad でおひな様を出してあげれば、絵本で探すという興味もあるけれど、そういうものでどんどん興味が広がっていくのかなと思いました。ただ実際は環境もないのが現実です。

（座長）

今度は絵本についてなんですけれども、本の蔵書数というのは園によってある程度確保されているのかをすごく知りたいです。小学校の校長だった時に幼小接続で園に行ったら、結構季節のものとかキンダーブックなどはあったんですが、附属幼稚園でたくさんあったような図鑑や物語、いろんな言葉遊びなどの本が少ないなと思ったのが実感です。それで、ちょうど心を育てたいと思っていたところなので道徳の授業をやったんですが、「じわっと涙が出てくるような本や友達っていいなと思うような本を置いてちょうだい」と園長にお願いをしたら、「いいね、どんな本を推薦してくださる？」と言われたので、私もいろんな人に聞いてこれはどう？と言ったら、買いますとすぐに言ってくださって園長先生たちが買ってくれた覚えがあります。幼小接続の一つとして、いい本がある園というのはすごく大事だと思っていて、それをまずどうしても伝えたいなと思いました。

また、本を読む時間の確保についても、絵本の日といって保護者が来てくれるような園だったから、保護者が自然に来てそこらで辻読書ではないけれど、廊下でひざの上に自分の子じゃない子どもを乗せて読んであげるような時間をつくったりもしました。

（委員）

ICT に関連することですが、今の絵本の話もそうなんですけど、非認知というところでは自然と本物の関わりをすごく大事にしているわけです。私は古い人間かもしれないけど、便利になるのは分かるんです。確かに、その場にいていろんなものと関われるかもしれません。だけど、本はやっぱり膝の上でお母さんが読んでくれるとか、自分で探してきた本を読むとかが大事なのではないでしょうか。私はその膝の上で読んでもらった経験があるからこそ、後でそれを IPad で読んでも、良かったと思うのが人間だと思うんですね。夏のエアコンはすごく涼しくていいんだけれども、それは私たちのように小さい頃すごく暑い思いをして、最初はうちわ、扇風機、そしてエアコンになっていく中で素晴らしさ感じた。そういう苦労や経験があってのエアコンだからいいんですけど、今の子どもたちは生まれてからエアコンの中にいるわけです。だからこそ、むしろ、この非認知の本当の関わりを知ってから ICT が出てくるものだと思います。それから、この前、市の ICT 研修に出て、自分たちが生徒役になったんですね。先生の設問に対して自分が答える、すると先生の方にみんなの答えが出るんですよ。そこから、先生は、

自分と同じ考えの人と会話もできる設定にしてくれるんですけど、それって何のために？みんなの前で話がなかなかできない子、言いたいことが言えない子にとってはいいって言うんですけど、それは配慮を工夫することで、それよりも実際の友達と話し合った方がいいと思うんですよ。別の学校の友達と対話するならいいんですけど、なんで同じ集団の中でわざわざそんな形で話をしなければいけないんだろう。ICT は大事です。だけど使い方を間違うと、ここで言っている非認知の能力を削ぐことにならないのかな。ICT は時間のない時にいろいろ情報を集めるのに保育者にとってはすごくいいと思います。子どもにとってはまだもう少し検討してから使わないと、「これを使っておけば便利だから」みたいになってしまうとだめかなと勝手に思いました。

（座長）
もちろん原体験とか人との対話とかが一番大事で、ツールでしかないんだけれども、それをツールとしてだけ使えるかというのが大きく関わってくると思います。

（委員）
私も、原体験や関わりがもっとも大事だと考えています。一方で、小学校一年生でもうすでに IPad を持って、例えば生活科であればこれまでの自分の野菜の成長を撮りためて振り返ったりとか、それから自分が作ってきたおもちゃの進化を見てこんなふうにできたんだなというような使い方もされています。もう一つ、幼児期からかなり親御さんのスマホを見せてもらって画像とかいじれる子がかなりいるんではないかと思うんです。そういう実態がある中で、どういうふうに活かせるのかなということに非常に今興味をもっているので聞きました。

（座長）
親御さんの負担、給食かお弁当かということについて、いかがですか。

（委員）
令和４年度から町立と私立に分かれる時に、町立は給食でご飯を持っていかなくてもいいんですが、私立は毎日ご飯持参で行くようになるようです。今は町立こども園で完全給食ですが、今後毎日ご飯持参は親の負担にならないか心配です。
（事務局）
今のお話ですけど、令和４年度の新体制において町立幼稚園では完全給食を提供しますが、私立認定こども園では副食費だけ頂戴して主食の持参となりますので、全ての私立において毎日米を持参していただく全ての私立においてという方針で今準備はなさっています。というのも、どうしてもスケールメリットで私立認定こども園は自園調理になりますので、主食まで用意をすると給食費にはね上がってきて現行の給食費が町立では今、月額四千二百円を水準としているところを、大きく乖離してしまうという試算が出たので、そうなってくると保護者の経済的負担があまりにも大きかったので、主食はこの辺の地域ですと農家さんも結構多いのでお米を買うようなご家庭が町中ほど多くないだろうという判断から、法人さんは主食を持ってきていただいて給食費を抑えるという手段に出ました。ただ、いろんなご家庭があることは法人

も認識していて、主食は用意できないとか万が一忘れてきてしまったというようなご家庭に関しては、個々に契約を結んで主食費を頂戴して主食を提供するような完全給食にするみたいなことも考えていらっしゃるようなので、そこは柔軟に対応するようなんですけど、ただまあ一義的に全員分を毎日用意するだけの調理器具が用意できないので、そうしてくると給食費を抑えるという面から主食は持参。ただし万が一のときに備えて、未満児は全員完全給食ですので、その分から少し主食を頂戴して食いっぱぐれることのないように子どもさんたちには提供するというふうに聞き及んでおります。

（座長）
　不思議ですよね。町立だけ幼稚園で出しているのに、どういう試算になるのかちょっとよく分かりませんが。

（事務局）
　町立は今、幼稚園から中学生までの分の二千食ぐらいを一気に作っているので、一食当たりが二百七十円で抑えられます。

（座長）
　数ですね。では話を戻して、私がどうしても気になったところを言います。短期指導計画に１０の姿の数字が入ったことは、もう全然どうこうとは思いません。それは意識したい、見通したいという思いでやられているのだから。そうではなくて、配慮事項の下から３つ目を読んでみた時に、「話を最後まで聞けているかどうかその都度止めて話は最後まで聞くこと、合図があったら動き始めることを伝える、保育者が話を始める前に最後まで聞くことを意識して声掛けする」というようにあります。椅子に座って話を聞く環境は新しいことでもあるので、幼小接続のために園の方が小学校に行ったら苦労しないように、よかれと思ってよくやられることかもしれないですが、どれくらいの時間や言葉でやるか分かりませんが、とにかく私は遊ぶことを中心に十分遊び込んでほしいわけです。話を聞かないで立ち歩いているとしたら、その子は立ち歩いて何をしたいのだろうか。そんなに座らせて聞かせたい話なのか。その子は本当に十分遊んでいるんだろうか、という思いがあります。私は小学校で一年生を何回も担任しましたが、机の下に入っていたり、椅子で飛行機をやっていたり、あるいは立ち歩いている子を「どうしたの、座りなさい」と何度も何度も注意することは一切しませんでした。でもちゃんと二年生になったら座ってますし、ものすごくいいアイディアは意外とそういう子から出てくることもありました。多様性を認めるということが大事なんだけれども、園の先生方が枠で抑えよう、こうでなければいけないと思いすぎていないか、もっと言えば「はい座るのよ。今この時間でしょ」と何回も何回も同じ子が注意されたら、その子どもはどう思うだろう。周りで見ている園児は、あの子はいつも注意されているな、あの子は注意をされても仕方のない子だなと無意識のうちにいじめの芽が育たないだろうかということが少し心配になりました。でも、園で何を一番やらなければならないかということは分かるんですよ、これをすーっと読めば、ああそうだろうね、座っていたほうがいい、座ることに慣れていないんだねと思うけれども、この間も言いましたが、発達心理学的にも否定と「やりなさい、これはダメです」と言われ続けると

脳の発達が阻害されるし、ものすごく罪悪感を感じる子になるというふうに分かっています。だから、ある園ではプラプラしていても「あの子は何をしたいんだろう」「まあやらせてみましょうか」と言って、すぐ座りなさいみたいなことは一切しないやり方も出てると思うんです。それは特別支援にも関係するかもしれないけれど、ここのところをどういう構え、どういう大人のまなざしで一人一人の子どもを見るかという意味で大事なことだなと思いました。

（委員）

今、指摘されたところを私もメモしていたんです。先程幼小接続の週案が出たじゃないですか。非常に良くできていると思って教育月報で私の解説付きで紹介したこともありました。ところが、幼稚園の方に下りてくると、むしろ幼稚園の方が小学校の就学を意識するあまり型にはめようとしているのかなという印象を実は少しもったんです。というのは、この短期指導計画の下から２番目のところで、かっこよく座っている子をほめてまわりの子に良い刺激を与えるというところですが、先生たちの立場からするとすごくよく分かるのですが、ほめられるためにしっかり座っている子をつくってしまいがちにもなるのかなと。要するに、ほめられるためになんかこうシュッとする。そういうのはやはり幼児一人一人の理解と予想にもとづいて保育を行う幼稚園教育要領の趣旨にそぐわないのではないかなと思うのです。

私も恥ずかしい話、幼稚園に勤めていた時、話がしっかり聞けないのはやはり自分の心掛けであったり、あるいは子どもの興味関心を引きつけるものでなかったり、子どもが必要感をもっていないからじゃないかとか、常にその反省に立って保育をしていました。逆に、今度小学校に戻ってくると、やはり「はい、話を聞きましょう」ではなくて、自然に興味関心をしっかりこちらが把握してお話することで全然話は聞きますし、集中してやることもできていました。ですので、聖籠町としてやはり仕掛けてしっかり子どもに考えさせたり、仕掛けることで子どもを成長させたりという趣旨があれば、もうちょっと仕掛けを大切にした話の聞き方にうまくつなげていくことができるのではないかなと思いました。

（委員）

やはり大事なのは、子どもに何を経験させたいかということだと思います。その遊びを通してとか、この時期に経験させたいことに対して、どうしても一緒に座らせることが必要なのかということになると、ちょっと違うのかなと思います。

話がそれてしまうかもしれないですが、新潟市では、二区ずつくらい合わせた幼保小合同研修会というのがあって、私立の幼保子も含めた小学校の先生方との合同研修会があって、実際の保育を今年度はビデオ撮りしたものを見ていただいて、その後いろいろな幼保小の先生方で話し合うという研修会がございます。聖籠町では、育みたい資質能力などをアプローチカリキュラムとスタートカリキュラムの中で明確にしていて、さすが町であげて統一して同じ育てたい方向性を育んでいて素晴らしいなあと思います。それが、あまり園の数も多くなく、これから整理統合していく中で取り組んでいくということに非常に大きな強みであると思います。

新潟市はというと、一つの学校に何十という園が行っている中で、それぞれ違った取り組みとか形態があるのでなかなか難しいんですけれど、その中でやはりどんな経験をしてきたかというのを大事にして、何を経験させたいかというのが共通のアプローチカリキュラムになって

います。先程の合同研修会の中で、実は当園の教諭の保育を紹介されたんですけれど、冬の遊びで巨大なスゴロクを作って遊ぶという経験でした。その中でいろいろな興味があって、幼稚園の先生、幼保子小の特に若手の幼保子の先生が「小学校に行くまでに何をしておけばいいですか？」というのをグループ協議の中で言うんです。返ってくる答えが先生方によっても違うんですが、「身の回りの支度をしてください、身辺自立をしてください」と。でもそこは私たちが育みたい力と違う、まあそれは必要なんでしょうけれども、そういうことをそこで話し合うのではなくて、こう育ててきたものを受け継いでさらに伸ばしてほしいというのをお互いに共有するという形になると思うんです。なので小学校の前倒しではない１０の姿というのと同じで、ここも小学校を意識してという形の中で出てきたものだと思うんですけど、それは本当に育んでいることになるのかなというのが同じ感想です。また、その合同研修会の中でアプローチカリキュラムからつながって連休前までの何週間かのスタートカリキュラムがありますよね。そこだけではなくて、せっかくだからそれぞれの園で経験してきたことを例えば生活科の冬の遊びの場面とか、こま回しのときに幼稚園ではどんなことをやってきたかなとか、飼育の場面でどんなものを育ててきたかなとか、そういうものを各園違うかもしれないけれど、小学校の先生には幼稚園・保育園・子ども園での経験を必ず聞き出してくださいというのが、合同研修会の中ではお願いしたところです。なぜかというと、それがベースになってさらに広がっていくのに、小学校ではゼロからのスタートであるというところでまたしぼんでしまう。そこがやはり聖籠町がせっかくこうやって取り組んでいく中では、接続期の４・５月だけではなくて、小学校の先生の方にお願いしたいことであり発信していただきたいことですが、どんな経験をしてきたかというのもぜひ聞いて、教育活動に活かしていただきたい。当番活動でも長だと思うので、そういうことを活かしていただきたいと思います。そして経験させたいことというのは、見極める必要があると思います。

（座長）

小学校の先生には、「園ではどうしてたの？」というのを一つのキーワードにしてもらったらいいと思います。先程私が言ったことを一つの言葉にした教授がいました。「小学校に入ってお行儀良く座って成績が良かったとしても、意欲がある子とはかぎりません」と。だから、聖籠町ではどんな子を育てたいのかということになってくると思います。

（委員）

いま接続の話が出たんですけど、私も短期指導計画を見てこれはどうなのかなと思ったんですけど、やはり付け焼き刃で型だけを教えてもそれは入学式で化けの皮がはがれますよね。やはり大前提として子どもたちが聞きたくなる格好であるとか場であるとか、今経験とおっしゃいましたが、そういう場を設定するということを重視してお書きになった方がいいかなと思いました。今日こういう状況になると、特別支援の考え方とか視点とかそういうところも当然加わってくるでしょうし、TPO を教えることも大事なんでしょうけど、我慢大会になったらこれは台無しですよね。どういう場を設ける、子どもたちにどういう経験をさせるか、そういうところを重視して記述されるといいと思います。集中して話を聞きたいとかそういう場があって、そこで子どもたちがこういう経験するのっていいな、よく話を聞いてよかったなという経験が

きっと生きてくるんだろうと思います。そういう場が設定できれば幼児教育としての成果になってくるでしょうし、小学校との接続においても成果になってくるのかなと思います。それから、スタートカリキュラムとアプローチカリキュラムについて先程から話が出ているんですけれど、聖籠町では５週間の計画は非常に丁寧だなと思いました。私の学校は短いのでもっと長くしたいなと思っているんですけど、とても丁寧に段階的にやられるというのは非常に素晴らしいので、私も参考にしたいと思います。

（委員）

短期指導計画を書いた人を援護するというか、配慮事項のところだけを見て話の聞き方の話になると、少しこれはどうかなという部分はあるんですけど、何をさせたいかという時に、この生活の見通しをもって動いたり考えたりすることを子どもにやらせたいわけですよね。そのためには、まず見通しをもつためにその子に、こうやるんだよということを聞いてから動いてほしかったんですよね。この前提があると思うんです。例えば手紙を配る際には、何枚とってくれというのが分からないとうまくできないから、この場面では最後まで話を聞かないと見通しをもてないということで、これを書いたのだと思います。

今全体で話し合っているのは、話を最後まで聞いているのはまずは無理だよねという部分で、そこをちゃんと区別して考えないといけないので、見通しをもたせるためにはというこの活動では、話を聞くのも大事なことなのかなと考えてこの計画を作られたのだと思います。

（座長）

３歳からの流れの中で、子どもたちがどれくらい遊んできてるかによって、集中して遊んでいる子どもは自然に話を聞くようになってくるという積み上げもあるのではないかと思いました。

（委員）

おっしゃるように、ここの文言についてはいろいろな角度からみて精査すると、十分なものではないなと思います。私は大事なのは、こういうものを現場の先生方が意識してより子どもを見取りながら書ける力、書く力をコーディネーターさんを中心にこれから磨いていく、そういう外枠ができていればいいのではないかと思います。

少し話が飛びますが、やはり小学校のことは園の先生は自分が習った、通ってきたことを通して子どもたちに期待をかけるわけですよね。どうしてもこれまで特に幼小との連絡があっても、この子はどういう子どもでしたみたいな形的なもので。いいかどうかは別として、そういうことの語りや引き継ぎが中心だったものも含めて、聖籠町ではもっと総合的にこんなことができる子どもたちですというふうに連携していこうということだと思うので、こういう枠組みはぜひ大事にしていき、振り返りをしながらブラッシュアップしていければいいのかなと思っています。新潟市の幼保小合同研修会は、大きな市なのにやれるというのは本当にリーダーシップをとる人がいるからだろうなと思っています。ぜひどこの小さな町でも、そういう本当の連携というのはこれからできればいいなと思っています。

（委員）
　センター長はじめ皆さんが、指導者のすごい指摘をすべて受け止め残すところは残してよかったなと、そこは心配していたので私は大変感動しました。わくわくシートのあたりから具体的な話が出たので、とても私は勉強になりましたし、具体的な話ができることが重要だと思っています。
　三十年くらい前に、「行政は最大のサービス産業だ」ということをアメリカの企業で活躍し日本の政治家になった人が言って、それを私は新採用くらいの時に聞いて「よし」と思ったことがあるのですが、この事業の成功は何なのか、評価をぜひまたブレずにやっていただきたいと思います。それは当然住民感情なんですけれど、委員のお子さんのように行きたいなんてことを言う子どもたちが何人いたかなんて数えられないし、言わない子もいっぱいいると思うし、そしてお家の人に聞けば子育てが忙しくてそんな工夫したって園に行ってくれればいいみたいなこともあるので難しいと思うんです。それは先回、保護者代表がズバリ言っていてちょっと感動したんですけれど。先生方が楽しくワクワクやってくれれば必ず良くなるんだって言ってるわけですよね。だから、私たちはこの指標をどこに置くかというと、当然ここに書いてある先生の指導力しかないんですけど、指導力は園長先生がある意味評価できますし、指導力の中には当然モチベーションややる気というのがあるので、それはアンケートなどでやるのか分からないですが、私はぜひ今の段階で調べたデータと何年後かにやって良くなったのかどうか、そういう指標をぜひもっていただき事業成功を仮定してほしいなとすごく思っています。一番杞憂なのは、センター長含めて皆さんが「やったー」って最後に思えるかどうかというところが成功の鍵を一番握っていると思うので、ぜひそのあたりを押さえていただければなと思っています。

（座長）
　よくまとめていただいて、また違う視点からこの事業の成功は何なんだろうという指標というのは全然考えていなかったので、さすがですね。ありがとうございました。

（委員）
　聖籠町を活かして果物とかがおいしいので、自然と子どもの笑顔と健康を大事に、楽しくあと先生たちの負担にならないように保護者との井戸端会議も大事にしてもらって、いい園をつくっていけたらなと期待しています。

（委員）
　このワクワクシートの大きい四角の中はどのように書くんですか？

（委員）
　大きい四角のところは、真ん中に環境構成などを書いて、そこからごっこ遊びなど活動がいくつかありますので、それについて書いていくという形です。二日か三日分くらいを１枚のシートの中に予定していまして、遊びの流れとかが自分で分かるようにしています。まだこれで決定というわけではないのですが、このように書いているところです。

（委員）
　分かりました。ありがとうございました。やっていきながらまた継続できるようにどんどん変えてもらえればいいと思います。

（事務局）
　座長様ありがとうございました。今回、有識者会議は一旦閉じるのですが、今回幼児教育の県内のスペシャリストの皆様に集まっていただきまして、この会はぜひ継続していければありがたいなと思っています。ですので、聖籠町が来年度どのような実施をしてどのような成果が上がっているのかというのを、皆様からお集まりいただいて、発表を見てまたご指導・ご感想いただく会をつくりたいなあと思っています。もちろんご異動とかあると思いますので、全員がこの場に集まることができるか分かりませんが、皆様がよろしければ年一回のこの会に参加していただきたいと思っています。本当にゼロからのスタートでしたが、皆さんブレーンが集まるとこんなに一年でどんどん進むんだなと実感しております。お一人お一人の力がなければ絶対にここまで来なかったと思います。そして、「アドバイザーがキーワードだ」と常におっしゃっていた理由を、本当に私も実感しております。今後もぜひ聖籠町にぜひお力をお借りできればと思っております。本当に一年間お世話になりました。皆様もこれからますます新潟県の幼児教育にもぜひご尽力いただいて、県の子どもたちのためにまた発展していければ、私もセンター長として嬉しく思います。一年目の聖籠町の幼児教育へのご指導、本当にありがとうございました。